

新京都戦略

～すべての人に「居場所」と「出番」がある
「突き抜ける世界都市京都」の実現～

まちと子どもに、虹をかける。

京都市では、明治2年、日本最初の地域制小学校「番組小学校」の創設以来、「地域の子どもは地域で育てる」理念の下、学校が地域のコミュニティの中核として、地域とともに子どもたちの健やかな成長を育んできました。

2050年の未来を見据え、京都の理想を描いた「京都基本構想」の中で、誰もが「夢中」と「感動」に溢れ、学び続けられるまちを目指すことが示されました。その実現に向け、京都市政の今後の方針を示した「新京都戦略」の下、様々な公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクトを推進しています。

学校もその「テラス」の一つとして、まちに開き、多様な人々や活動が交差する新たな学びと協働の舞台として、これまでの役割を更に進化させようとしています。

そこでは、多様な「人々」がかかわり、つながり、交じり合うことを通して、地域に新たな彩りを生み出していく。

言わば、まちと子ども、地域と学校、そして、そこに生きる様々な人々や活動に色とりどりの「虹」をかける営みであり、この要となるのが、学校と地域をつなぐ「地域学校協働活動推進員」です。

推進員の配置を通して、学校と地域に関わる人々がともに虹を描き、子どもたちの健全な育成と地域の活性化を図っていく。

それが、私たちが目指す、学校と地域が協働する新たな姿です。



地域学校協働活動推進員って？

地域・学校・関係機関をつなぐ架け橋です

地域学校協働活動推進員（以下、推進員）は、学校・地域・関係機関のつなぎ役として、双方の意見を調整し、連携を強化したり、学校支援に関わるボランティアを増やしたりする役割を担うなど、子どもの健全育成と地域の活性化に関する取組の充実と教職員の負担軽減を図っていただきます。



■ 推進員配置の背景と目指す姿

地域と学校が手を取り合い、子どもたちの育ちを支えるために

京都市では、「地域の子どもは地域で育てる」という理念の下、学校運営協議会が法制化される以前から全国に先駆けて導入（本市設置率100%／全国平均約6割）を進め、京都ならではの地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）を推進してきました。

しかし、近年は、人口減少や少子高齢化、ライフスタイルや価値観の多様化などを背景に、地域コミュニティの担い手不足やコロナ禍後の地域活動の減少など、地域課題が深刻化しています。

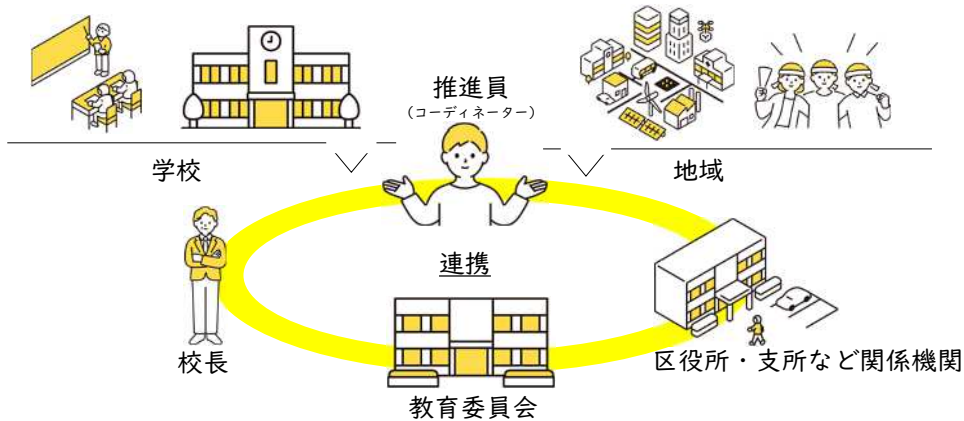
その影響は、これまで学校と地域の繋がりに支えられてきた学校運営協議会をはじめ、体験活動や授業支援、登下校の見守り活動といった地域学校協働活動への参画が得にくいなどの課題に繋がるとともに、子どもたちが地域と関わる機会や地域・社会への貢献意欲が十分でない状況も見られています。



「コミュニティ・スクール」から「スクール・コミュニティ」へ

これらの課題解決に向け、現在、京都市では、学校・地域の連携・協働の在り方を見直し、京都ならではの学校を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）を推進しようとしています。

学校施設は、学校教育の場であることが前提の下、地域にとって身近な公共空間の一つである学校施設を拠点とした多様な主体による豊かな地域活動を通して、地域に活力を生み出し、その活力を教育活動の充実へと繋げていくことで、子どもの健全育成と地域の活性化の好循環による持続可能な地域社会の実現を目指しています。



こうした認識の下、学校と地域、関係機関の間に立ち、互いの思いや強みを結びつけるコーディネーターの役割が重要であることから、そのキーパーソンとして、令和7年度から推進員の配置を進めています。

■ 推進員配置の目的

- 01 学校運営協議会及び地域学校協働活動の充実
- 02 学校施設を拠点とする地域住民の居場所と出番の創出
- 03 学校における働き方改革の推進



どんな人が推進員に適しているの？

「地域と学校のため」に活動できる熱量のある方です

原則、配置校区に居住する地域住民やPTA・教職員経験者、地域支援団体関係者を想定しています。特別な資格や経験は不要です。社会教育法第9条の7に基づき、社会的信望があり、かつ、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する方が適任であると考えています。



■ 推進員の諸条件

日数

学校毎に週8～16時間が基本（例：1日4時間/週2～4日）ただし、本人の都合上、それ以下でも可能です。
※年度途中で本人や学校の都合、休日の地域行事等に合わせて柔軟に活動日・時間の変更は可能です。

謝金

1時間につき1,500円（税込）※2か月毎に支払います。交通費相当額は別途支給します。

保険

教育委員会において、ボランティア保険（活動及び通勤途中の災害を補償）に加入します。

活動場所

原則、配置される学校に常駐します。ただし、活動に応じて出張することもあります。

■ 推進員の主な役割

学校長の指導の下、おおむね次に掲げる活動を行います。なお、下記「03」の事業については、区役所・支所などの担当者からの依頼に基づき、協力・連携を行います。

01 学校運営協議会や地域学校協働活動に関する活動

- ・会議の開催に向けた校長及び理事長等との事前調整
- ・地域学校協働活動の実施に向けた支援、ボランティア募集、地域団体等との連携促進
- ・地域住民等への情報発信 など

✓ 主な活動例

- ・会議の資料作成や会場準備、議事録の作成・広報
- ・企画推進委員会による活動、放課後まなび教室、学校安全ボランティアなどの活動支援
- ・ゲストティーチャーの調整など学校と地域の連携支援
- ・新たな地域人材やボランティアの発掘
- ・広報活動（学校運営協議会だよりの作成・配布、学校HPの記事の作成など）



02 学校施設の開放に関わる活動

- ・学校ふれあいサロン事業・学校コミュニティプラザ事業、学校体育施設開放事業等の実施調整・施設管理 など（教職員の事務補助）

✓ 主な活動例

- ・施設管理に関する組織や担当者との情報共有、連携
- ・使用申込の取りまとめ・調整、鍵の受渡し
- ・上記事業のほか、休日や夜間に学校施設で行われる地域学校協働活動の支援



03 「地域資源を活用したつながり・支え合い創出事業」に関わる活動

- ・原則、配置校における学校施設を拠点とする地域住民の居場所と出番づくりへの協力・連携

✓ 主な活動例

- ・会議へ参加、区役所・支所との連携（区と学校の橋渡し）
- ・実施日程や会場の調整（学校施設の空き状況の確認・予約、学校との調整等）
- ・実施時の施設管理（準備に関わる業務、鍵の受け渡し、使用料徴収、原状復帰の確認等）



「地域資源を活用したつながり・支え合い創出事業（所管：文化市民局）」って？

みんなの力で地域を活性化させる取組です

小学校施設を利用して、地域の団体や大学、企業などの多様な主体が協力し、住民の興味を引くイベント等を開催します。これまで地域活動に参加していなかった人々を引き込み、住民の交流を促進します。主に区役所が本事業をコーディネートし、学校側の窓口として推進員が協力します。



区役所・支所と連携した

「学校を核とした地域づくり」主な活動事例



推進員が活躍しています！

推進員の配置を通して、地域の方や区役所・支所との連携が推進!!学校を拠点に、地域住民や地域団体の新たな交流の場が創出される事例も出てきています。

学校に常駐する推進員だからこそ気づき得る視点があったり、地域の情報が集まったりすることもあり、今後、区役所・支所と推進員との連携を進めることで、学校を核とした地域づくりが推進されていくことが期待されています。

CASE1

学校に関わる地域住民同士が交流する憩いの場「カフェ」の実施

学校内ランチルームで、日頃学校を支援いただいている登下校の見守り隊や放課後まなび教室、自治連合会などの地域の方々を招き、「カフェ」を開催。適宜、教員も参加するなど、地域との交流が進んでいます。継続的な交流を図るため、月1回以上開催しています。



【成果】

- 異なる学区の住民同士や学校での活動時間帯が異なる団体同士のつながりが創出されるなど、地域の交流が広がりつつあります。

【推進員の関わり】

- 推進員が、日々活動をする中で、異なる学区間の住民同士交流の機会を設けることで、学校に関わる人々の連携が促進され、より地域学校協働活動が充実するのではないか、と感じるようになりました。そこで、ご自身の趣味を活かし、学校内でカフェを企画し、実施。区役所との連携の下、たくさんの地域の方々が交流する憩いの場となりました。

CASE2

地域の伝統文化「剣鉾」の次世代への継承

地域住民が大切にしてきた地域の伝統文化である「剣鉾」を次世代に継承できるよう、現在、クラブ活動化に向けた検討が進んでいます。子どもたちにとっても、自分たちが暮らす地域の伝統文化を体験することは得難い経験になります。



【成果】

- 継続的に子どもたちへ身近な伝統文化の継承とともに、地域の皆様のやりがいや出番づくりが期待されています。

【推進員の関わり】

- 推進員が学校と区役所、地域住民の調整役となって、クラブ活動化に向けて相互の意見を連携・調整しながら、具体化に向けて進めています。

Topics

学校が、多世代による学び合いの舞台の1つに!

「夢中」がつなく、学び合いのコミュニティ「京都学藝衆構想」



京都市では、学校などの公共空間において、幅広い世代が京都の多彩な価値・魅力に触れ、共に学び、交流する「夢中になれる学び合い」の機会を創出し、文化や産業などの次世代への継承やコミュニティ活性化などを図るため、「京都学藝衆構想」を推進します。

「京都学藝衆」とは、多様な技芸や技能、見識、経験が磁力となり人々が惹きつけられ、学び、学び合うことで、京都の価値・魅力を次の世代につなげていく方々の連なりであり、広く市民が参加し、学び合い教え合う幅広い分野の「テーマコミュニティ」です。

狭義の学問・芸術・文化に限らない幅広い分野の学藝例

- 伝統文化(茶道・華道など)
- 伝統芸能・伝統工芸
- アート(音楽、絵画、彫刻など)
- 思想・哲学・文学
- 地域文化(郷土史、祭りなど)
- 医療・健康・福祉
- 研究・科学
- 建築・造園
- 料理・菓子
- 起業・経営
- 農業・林業
- スポーツ・武道など

開催予告

全国コミュニティ・スクール研究大会 in 京都



子どもたちの学びと育ちを支える地域社会を次世代へと受け継いでいくには、学校と地域の「共創」による取組が欠かせません。そのためのキーワードは、「コミュニティ・スクール(地域とともにある学校づくり)からスクールコミュニティ(学校を核とした地域づくり)へ」。本大会では、これからの学校運営や地域・学校協働の在り方などを展望する機会とします。

日時 令和8年11月14日(土) 10:00-16:00(予定)

会場 国立京都国際会館(京都府京都市左京区岩倉大鷲町4-2-2)

対象 教職員、行政職員、学校運営協議会委員、PTAなど

申込 令和8年8月頃に申込開始(再度案内します) / 参加費無料

京都市教育委員会 生涯学習部 学校地域協働推進担当
〒604-8064 京都府京都市中京区富小路通六角下る骨屋之町5-4-9
TEL: 075-251-0456